

大腸癌研究会プロジェクト  
『pT1 大腸癌のリンパ節転移の国際共同研究』

研究 1 (日米共同) pT1 大腸癌における「内視鏡摘除後の追加治療の適応基準 (大腸癌治療

ガイドライン)」の検証とリンパ節転移リスク算出 tool の作成

研究 2 (日英共同) pT1 大腸癌のリンパ節転移のリスク因子に関する研究 (Formula One Study)

## 第 11 回会議議事録

2022 年 7 月 7 日

浜松町コンベンションホール 「メインホール」 + web

### ■出席者【50 音順】

- 委員長 防衛医科大学校外科：上野 秀樹
- プロジェクトアドバイザー 兼国際共同研究の研究責任者：杉原 健一
- 委員 (50 音順)：秋元直彦、味岡洋一、池松弘朗、石黒めぐみ、石原聡一郎、浦岡俊夫、大内彬弘、大沼忍、岡志郎、奥山隆 (欠席)、勝又健次、金光幸秀 (欠席)、河内洋、桑井寿雄、小嶋基寛、小林宏寿、小森康司、今野真己、斎藤彰一、齋藤裕輔、齋藤豊、坂本一博、島崎英幸 (欠席)、菅井有、関根茂樹、高松学、田中信治、富樫一智、中井啓介、永田信二 (代理：中島勇貴)、中村好宏 (欠席)、福長洋介 (欠席)、藤盛孝博 (欠席)、堀田欣一、松下弘雄、松田健司、山田一隆、山田真善、山野泰穂 (欠席)、吉田直久、梶原由規 (事務局)
- オブザーバー 30 名

### ■会議内容

#### 1. 研究 1 (Nomogram study)

##### (1) 進捗状況について

事務局より、追加予後調査が完了したこと、その過程で 105 例の重複症例の存在を確認し、これらを除いた 6105 例が最終集積症例数であることを報告した。最終確定データをもって主論文を完成し、投稿中であることをアナウンスした。

##### (2) 副次的研究について

以下の 4 課題の副次的研究の結果が報告された。

- 年齢別にみた pT1 大腸癌の臨床病理学的検討および予後に関する解析 (栃木県立がんセンター 今野真己先生)

⇒高齢者の方が男性、直腸癌、隆起型、リンパ節転移陽性の比率が低下した。しかし、DFS には差を認めなかった。

岩本医師 (和歌山県立医科大学)：年齢区分として検診の影響などが変わる 40 歳以下でも検討すべきでは？

⇒症例数が少ないため検討結果に含めなかった。

齋藤豊委員：他の検討でも若年者ではないが、直腸の陥凹型腫瘍の解析では他部位と比較して polypoid growth が多かった。

- 時代別にみた pT1 大腸癌の臨床病理学的因子、治療成績に関する検討

(東京大学 佐々木和人先生)

⇒大腸 ESD/EMR ガイドライン初版が発刊された 2014 年 4 月以前(前期)と  
同 5 月以降(後期)で比較した。前期に比較して後期では HM 陽性例が減  
少、追加切除が増加、リンパ節転移率は低下していた。また、追加切除症例  
の予後は後期群の方が良好であった。

河内委員：追加切除が増加したとのことであるが、どの病理因子によるもの  
か増えているか？(病理診断の変化の影響があるか？)

⇒ 病理因子の詳細は検討できておらず、今後解析を加えたい。

上野委員長：後期でリンパ節転移率が低下した原因として、免疫・特殊染色  
の汎用による脈管侵襲の陽性率の変化を確認していただきたい。

- pT1 大腸癌の内視鏡的切除後における腸管内癌局所遺残を来たすリスク予測  
因子の解明、および腸管内癌局所遺残が長期予後に及ぼす影響に関する検討  
(順天堂大学 杉本起一先生)

⇒追加切除例で腸管内局所遺残を認めた症例は 30 例であり、そのリスク因子  
は多変量解析で切除法が ESD 以外、分割切除、HM 陽性であった。しかし、腸  
管内局所遺残は予後に影響を及ぼさなかった。

上野委員長：追加切除なしでフォローとなった症例における局所再発も検討  
に加えた方が臨床的には意義のおおきな解析となる。

河内委員：癌遺残の部位が粘膜内か粘膜下層以深かの情報があった方が良  
い。

富樫委員：内科としては追加切除なしでフォローした症例のデータの方が重  
要である。また粘膜内遺残のみであれば内視鏡切除が可能であるため意味合  
いが全く異なる。遺残症例が少ないため matching を用いるよりは propensity  
score を用いた多変量解析で解析した方が良いと思われる。

斎藤豊委員：国立がんセンター中央病院の副次的研究は再発形式とそのリス  
ク因子を検討するものであり、内容の重複がないか懸念がある。

⇒追加切除なしの症例も検討に組み込むこと、局所遺残症例について遺残部  
位を該当施設に問い合わせること、検討結果を国立がん研究センター中央病  
院に照会し、検討内容の重複の有無を確認することとなった。

- Inductive Logic Programming を用いた pT1 大腸癌リンパ節転移予測因子に関す  
る検討

(日本医科大学 秋元直彦先生)

⇒6 種類の機械学習を用いてリンパ節転移リスク因子について評価したとこ  
ろ、ly、SM 浸潤度が重要な因子であった。また高齢者ではリンパ節転移率が

低下することから、今後、高齢者に限った検討も必要だと考えられる。

石黒委員：年齢とリンパ節転移の関連については、若年者の方が積極的に追加切除を行っているからではないか？

## 2. 研究 2 (F1 study)

### (1) 進捗状況について

事務局より4施設（がん研有明、がん研究センター中央、がん研究センター東、防衛医大）の病理医による interobserver study の結果から、新規病理因子である簇出、低分化胞巣、最低分化度について判定の一致度を高めるべく病理分科会で病理アトラスの作成を進めてきたことを報告した。簇出アトラスの案について上野委員長より概要を紹介した。上記3因子について作成したアトラスに基づいて再判定した interobserver study の結果を確認のうえ、本邦 1000 例分のデジタルスライドデータの評価を開始することを報告した。

## 3. その他

特になし。